

# 社友会だより

## 第 44 号

発行 センツウ社友会

住所 神奈川県横浜市南区芹が谷 4-27-19

〒233-0006 大和田輝彦 内

編集者 濱田 治

### 新年のご挨拶

社友会会長 法安忠美

新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、お健やかに新春をお迎えることとお慶び申し上げます。



近來、いやもっと以前から、世の中ちまちまとせせこましくなっていて来ておる様な気がしてなりません。重箱の隅を楊枝でほじくる様な仕草が政治は勿論、世間の中にも横行、充満して

いるのではないのでしょうか。由々しきことです。

先頃、政治家であり、作家でもある著名人の「エゴの力」を読んで、感銘をうけました。

「エゴ」という言葉は、社会通念としては、あまり良い言葉ではないと考えておりましたが、彼の定義は違うのです。「エゴ(自我)とは、人間の個性。その個性は人間の感性により培われるものであり、その発露は、ずばり、人生を左右する力となる。故に、自分の人生を切り拓いていくために強い自分を造る、他人に頼ることなしに自ら努める。」と述べております。

この定理により、現代に至るまでの、数々の歴史上の人物を肯定的に取り上げておりますが、あの織田信長の残忍な所業も、著者の、彼の合理的な感性の発露、とする陰に霧消してしまい、近世の扉を開いた武将として讃えられるのです。

著者の言う「たった一度の人生、たった一人の自分自身のために、エゴを蓄える努力」をしてみますか。おおかたを占める社友の皆様も、私も、遅すぎたようです。

社友の皆様にとりまして、今年も佳い年でありませうようにお祈り申し上げます。

### センツウ同窓の集い

#### 全国で盛大に開催

第 6 回となる「センツウ同窓の集い」が平成 26 年 11 月 22 日～12 月 1 日に、全国各地に於いて盛大に開催されました。

開催日順に各地の開催模様を紹介します。

#### 中央地区

平成 26 年 11 月 22 日(土)12 時から、東京港区のリバーサイドホテルに於いて、「センツウ同窓の集い」がOB、現役合わせて 46 名の参加を得て開催されました。

集合写真の撮影後開宴に先立ち、社友会の大和田事務局長から今井義昭さまのご逝去が報告され、全員で黙祷を捧げご冥福をお祈りしました。

司会進行役の鏡さんの指名により、福田嘉信様のご乾杯のご発声により開宴となりました。



アルコールと料理に興じながら、久しぶりの再会で、思い出話やら近況報告やら、和やかな語らい



で場が盛り上がった頃合い、司会から近況報告などをとということでスピーチの指名があり、始めに関西在住の富田さんから「関西では 12 月 1 日に同窓の集いを予定している。2 年ほど前に会社を退職してからは、専ら小学 3 年になる孫の面倒を見ながら時

間を過ごしている毎日である。」との話があり、続いて、今年の異動で関西から首都圏に戻った田村さんから「衛星電話の巻取り完了後も衛星電話業務の発展に頑張っている旨」会社の現状等を含めて報告されました。



この後、久しぶりに参加された方、毎度お騒がせの方等々、次々と壇上に登りスピーチが途絶えることなく時間は過ぎていきました。



また、会場では日本船舶通信時代、センツウ時代の懐かしい映像がスクリーンに投影され、参加者が身を乗り出して見入りながら、一段と話題に花が咲いたように歓談されていました。

こうしている間に、時間が流れて予定時間が迫り中締めとなりました。中締めは現役で参加さ



れた紅3点の川端さん、大野さん、千羽さんが登壇され、関東一本締めで終宴となりました。



【レポーター 濱田治さん】

### 東北地区

平成26年11月28日18時から仙台市五橋の「俺のはなみち」に於いて、センツウ同窓の集いが開催されました。

当日は、最長老の伊藤さん、遠方(盛岡)から高橋さんも元気に参加され、また、DS仙台中野店時代のスタッフも含めて総勢14名が集い楽しいひと時を過ごしました。

高橋新之助さんの乾杯の発声で開宴となり、1年ぶりの再会を喜び合ったり、昔話に花が咲き、近況報告やら趣味の話やらで、場は大いに盛り上がっていきました。

予定の2時間は瞬く間に過ぎて、お開きの時間となり高橋利彰さんの締めで終宴となりました。

例年同様、盛り上がった勢いで三々五々二次会に流れることとなりました。



【レポーター 佐藤健二さん】

### 中部地区

平成26年11月29日(土)の昼12時から、名古屋駅近くの伏見「旬彩の宴 想」にて、毎年恒例となりました「センツウ同窓の集い」が開催されました。

あいにくの小雨模様の天候にも拘わらず愛知、三重、静岡、金沢そして関東からの参加者総勢14名が集うこととなりました。

本田支部長は転倒骨折療養のため、欠席。盛会を祈るとのメッセージを奥田事務局長が読み上げ開会となりました。

始めに事務局から活動報告、続いて新会員山村さんの紹介。

次回旅行幹事の望月さんから宿泊場所等の案内の後、栗田さんの乾杯のご発声で宴の始まりです。皆さん飲むほどに口が滑らかになり、退職後も従来の職場や関連の業務に従事する者、新しい職場にて活躍を始めた者、地域の住民活動に生きがいを感じている者、趣味や健康に関する事等、話は尽き



ず予定の時間を大幅に超えたところで、佐竹さんの一本締め。(宴会はなんと3時間半でした)

来春の旅行での再開を楽しみに散会しました。  
《追伸》

来春の旅行は海の幸が旨い静岡県浜名湖で平成27年5月30日～31日に行う予定です。

関東からも近いところですので首都圏や他支部からの参加を大いに歓迎します。旨い酒を飲みながら歓談で盛り上がりましょう。



【レポーター 奥田賢司さん】

中四国九州地区

平成26年11月29日、九州地区(中四国含む)の「センツウ同窓の集い」が、大正ロマンの漂う国指定文化財、三井倶楽部で開催されました。

当該倶楽部で開催されたのは昨年に引き続いて2回目で、センツウのよき時代を知る行きつけの「割烹 万年亀」が経営するレストランである。



当時をよく知る大将と女将がいるから何かと便宜を図ってくれるので心強い。丁度、門司港レトロ地区の玄関口、門司港駅の真ん前に位置し、旧センツウビルもここから100歩、いや150歩かも知れないが近くである。今年も遠くは大阪、広島、松山、鹿児島、それに福岡、北九州、下関を含め総勢26名が集まった。

特に、感激したのは大阪より40年ぶりの参加者、久保さん(女性、結婚退職)である。会社は今どこに

あるの？事業所は？会社が変わったなら社員はどこにいるの？大阪で尋ねる場合はどこにいけば皆がいるの？等、変貌を遂げた会社の存在に驚き、昔を懐かしく思い出していました。

開宴は重鎮の原田さんの乾杯で始まり、あいさつの中で「実は広島で同窓の集いを開催したいとの長年の夢があった。いろいろな事情で開催できなかったがこの度、ようやく広島でOB、現役の有志が集い懇談会を行うことができた。九州の同窓の集いに影響を与えないよう配慮しながら今後も続けていきたい」と述べられ、その後高らかに乾杯、賑やかに開宴となった。

乾杯の後は暫くはおとなしくがセオリーで、レストラン自慢のディナーと会話を楽しみ、アルコールを嗜み、適度に宴会モードになったところを見計らいスピーチに移行した。

スピーチの中で、水泳をほぼ毎日楽しんでいる。マラソンを趣味に頑張っていること等女性スピーチがあり、感心すると同時に熟年女性？はこれから益々強くなっていくな！と同時に幸せな人生を楽しんでいる素晴らしさに



皆さん感服しきり。スピーチがほどなく終わったところ



で今回もサプライズということで前回同様、還暦のお祝いの儀式をしました。日本が高齢化になっていく中、我々の社友

会も高齢化を迎えて、若い人は皆無である。今年も目出度く還暦を迎えた方が一名かと思ひ指名したが、なんと同期といって現れること2人、順番に赤い帽子とちゃんちゃんこ着て記念写真に収まり、女将さんから祝福の品を



頂き本日最高の気分になりました。

この頃になると、もう会はお話の渦中にはまり、司会が声を出してもあまり関係がなくなり、最後は来年の開催時間の前倒し(18:30 開始を 16:00 頃繰り上げ開催)を提案してお開きとなりました。



【レポーター 松崎繁行さん】

関西地区

平成 26 年 12 月 1 日(月)12 時半から、神戸市三宮の神戸国際会館(西村屋ダイニング)で「センツウ同窓の集い」が開催されました。

昨年は同窓の集い開催が 5 回目を迎えた節目、私たちの生活を支えてくれた船を利用して開催しましたが、今年は神戸市三宮に位置する会場を準備、遠くは岡山から濱さん、または北陸石川からは古家さんと戸田さん、そして初参加メンバーを含む集まりとなりました。

開始に当たり世話役代表上中さんの挨拶、今年新しい船舶電話への取り替えが完了やドコモCSの設立等を踏まえ、センツウ時代から現在までの小資料をお渡しして、皆さんにこれまでの振り返って頂いた後、濱さんの乾杯発声によりスタートしました。



食べ物は「季節のお弁当コース」にしましたが、30分も経つと皆さんの弁当の中は殆ど残っていません、席のあちこちからビール・酒の声が上がり追加

すると、またその声が聞こえてきました。残った時間大丈夫かと不安を感じましたが、ビール・酒と皆さんの会話の熱気が会場を包み込み、予定する時間が過ぎていきました。



会話は弾み、これからの感がありましたが、コースの料理も終わりとなり三野さんに役目をお願いし一本締めを行い、集合写真へと進みました。



【レポーター 富田昌さん】

お悔やみ

寺西廣之 様 平成 26 年 10 月  
享年 78 歳

今井義昭 様 平成 26 年 11 月  
享年 83 歳

黒川紀明 様 平成 26 年 11 月  
享年 70 歳

謹んでご冥福をお祈りいたします